

# 中国甘肅省伝統建築の修理工事に関わる営造職人の伝承の課題

—蘭州市五泉山公園の太昊宮建築群を事例として—

Inheritance Issues of Craftsman involved in Repair Works of Traditional Buildings in Gansu Province, China: In case of the Taihaogong Group of Buildings in Wuquanshan Park, Lanzhou

姫 絵淳  
JI HUICHUN

## 1. はじめに

### (1) 研究の背景

中国の伝統的な建築は、主に木、土、レンガ、瓦、石を主な材料として使用し、「榫卯」という木構造の組み合わせの形態を現わされる。木造建築の伝統的な建築技術は「営造技芸」といわれる。営造技芸は大木工、小木工、瓦工、煉瓦工、石工、土工、油工、塗装工、積層工、貼工に分けられる。その中で木工は最も重要な作業で、師匠から弟子へ、そして家系における子孫へと受け継がれていった。営造技芸の継承は民間の組織のなかで継承されてきている。甘肅省は明清時代の北方官式建築を中心に進められていった。

中国美術学院建築芸術研究所は、2007年12月に「中国伝統建築営造技芸」に関するシンポジウムを開き、これを契機として営造技芸研究を開始し、2008年には「中国伝統建築営造技芸三次元データベース」の研究を始めた。この研究所は「中国伝統木造建築営造技芸」の提案書を作成し、これによって中国の伝統木造建築営造技芸は2009年にユネスコによって無形文化遺産に登録された。無形文化遺産に登録された後、この研究所は、遺産の記録と研究、保存にかかわる人材育成、学術会議と交流、保存計画の作成と提案、普及・広報など、営造技芸の保護と普及に貢献を続けている。

### (2) 研究目的

本研究では、太昊宮伝統建築群を研究対象として、その修理事業を通じて営造職人用語、工程製法、職種及び職人階級構造、工芸伝承手段、工事運営方式、現場管理について把握し、営造技芸とその職人の現状、その継承について研究することを目的にする。また、営造技芸を継承するためには、現状の課題を把握するとともに新たな継承について検討し、将来に向けて計画する必要がある。

### (3) 研究方法

営造職人の継承と現状を明らかにするため、文献から既往研究の論文を集め、営造職人に関する情報を整理する。営造職人が携わる修理事業に関する報告書、施工日記等の資料を把握して、修理工事事業の経緯と営造職人の担当作業を明らかにする。また、修理事例に携わった営造職人や作業員にインタビューを行った。

本研究は4人の営造職人を調査対象として、3人の民間的な営造職人にインタビューして、一人の国家級無形文化遺産代表性伝承者に登録された営造職人に取材した。表1は主に伝統建築の営造技芸の木作と瓦作になるので、調査対象について大工と左官の職人である。

表1 営造職人調査対象のまとめ

職人名前	調査方式	年齢	営造職種	証明書	所属機関
李永革	取材	65歳	大工	国家級無形文化遺産代表性伝承者証明書	故宮博物館
劉翔漢	インタビュー	46歳	大工と左官	栄誉証明書	個体
劉佰霖	インタビュー	55歳	大工と左官	無し	個体
王悦源	インタビュー	36歳	大工と左官	特殊業界資格証明書：木工	甘肅省伝統建築修理事業社

## 2. 営造技芸と職人の概要

### (1) 営造技芸

伝統建築は、木材、磚、瓦などの伝統的な材料を主として用い、木を構造部材として組み合わせる榫卯（接合）を構図の体系として建設される。この伝統技術の体系を営造技芸と称する。その接合の組み合わせは数多くあり、部材は緊密に結合されて負荷に耐え、建築構造物全体を支えることができる。

2009年に政府間委員会の第4回会合で中国の木構造伝統建築の営造技芸はユネスコの無形文化遺産のリストに登録された。

中国の伝統建築の営造技芸は、地方作法と官式作法に分けられている。本研究は官式作法を中心にして営造技芸の伝承を進めていく。近年、官式作法の形式は伝統建築の修理の工事に使われるだけでなく、

明清時代の官式建築の様式を模倣する新築、再建事業にも使われるようになった。

官式作法の伝統建築の基壇、木造躯体、屋根は図1のように様々な部材を組み合わせて建築物の重量を支える構造を持つ。そして各要素に施される装飾も官式作法で組み上げられる。

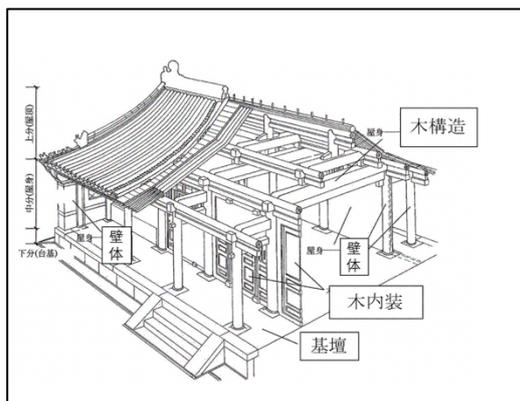


図1 官式伝統建構成

(出典：王晓華、「中国古建築構造技術（第二版）」、化学工業出版社）

中国清朝末期に營造技芸の工程は八つ作業に分類された。それは土作、石作、搭材作、木作、瓦作、漆作、彩画作、表具作で八大作と呼ばれた。しかし時代とともにいくつかは失われ、現在は主に三つの營造技芸が残っている。木作、瓦作は独立して継承されているが、漆作と彩画作は一つにまとめられて。

## (2) 營造職人

中国の營造職人の記録は、「考工記」という文献の中にみられる。これは春秋戦国時代に政府の営業職による生産の製造技術と品質規格を記述した工芸文献である。清朝の八大作の營造技芸は三つの營造技芸に集約され、木作、瓦作、彩画作が代表的な營造技芸になった。よって現在、活躍している營造職人は大工、左官と塗師である。

甘肅省の職人も主にこの3種類に分けられる。継承方式は一般的に家族内方式と師弟方式をとるが、現在では師弟による継承方式が主流となりつつある。継承方式は營造技術の親方による現場での教育と練習によって受け受け継がれていく。現代の營造職人は民間業務によって継承されていくことが多い。

甘肅省では大工を中心に伝統建築の修理工事が行われている。工事の現場で營造技芸に堪能な大工さんは「掌尺」と「作頭」をいう名称で呼ばれる。左官はまた「瓦工」を呼ばれる。甘肅省の大工は左官の仕事もできる。

塗師は大工・左官と比べて、現代は普通の修理と

位置付けられている。修理資格を持つ伝統建築修理会社は漆作、彩画作の修理を担当するが、国家文化財局の審査が必要になったため、新たな項目が立てられて入札することになっている。

また、工事現場には「小工」と呼ばれる職種がある。この職種は修理工事現場で大工と左官に協力し雑多な作業を担当する。たとえば石灰の材料を混ぜ、工事のゴミやレンガの運搬、木材の裁断、解体工事などの作業である。

## 3. 伝統建築の營造職人の現状

### (1) 中国国家級營造職人の現状

中国国務院は2006年、2008年、2011年、2014年に4回にわたって国家級無形文化遺産の代表的項目を発表した。全国で伝統建築の營造技芸として52項目の国家級無形文化遺産項目代表に登録されている。本研究対象の国家級無形文化遺産代表的項目は、「官式伝統建築營造技芸（北京故宮）」と「伝統建築修復營造技芸」に登録されている。

#### (i) 官式伝統建築營造技芸（北京故宮）

1950年代の初期に故宮博物院は民間から高師・良工を招聘し、伝統建築の修理組織を設立した。その營造技術の伝承方式は構成員における師弟関係であった。瓦、木、土、石、漆、彩画、表装等の營造職人が精緻な技術を用いて精密に仕上げ、宮殿建築物における各部の様式と施工工程を厳密に継承していった。これは北方地区の伝統建築に大きな影響を与え、として、西北地方の官式伝統建築を官式伝統建築の仕様でもって修理する時には、表2に示される故宮の營造職人に意見をj得ることになった。

表2 官式伝統建築營造技芸（北京故宮）の登録内容

官式伝統建築營造技芸（北京故宮）の營造職人は国家級無形文化遺産に登録状況				
登録内容	項目番号	公布時間	項目名称	申告機関及び保護機関
	VIII-174	2008年（第二ロット）	官式伝統建築營造技芸（北京故宮）	故宮博物館
營造職人の伝承者	名前	番号	民族	類別
	李永革	04-1911	漢族	伝統技芸
	劉増玉	04-1912	漢族	伝統技芸
	李増林	05-2866	漢族	伝統技芸
	呉生茂	05-2867	漢族	伝統技芸
	李建国	05-2868	漢族	伝統技芸
	白福春	05-2869	満族	伝統技芸

1975年から故宮内の修理工事を携わっている。2012年12月に「国家級無形文化遺産項目官式伝統建築營造技芸（北京故宮）代表性伝承者」という証明書を持つ李永革先生への取材内容から、伝統建築の營造技芸を伝承するために民間から学ぶものを募集していることが分かった。伝承者はこれまで5回募集し

た。最近の2回は社会に向けて2013年に15人と2019年に25人の学徒を募集して、しかし2013年の生徒の中で諦めた者もいる。現在では木作营造技艺に関する専門家になって、師弟制度の伝承方式で营造技艺を継承していく。

しかし多くの营造職人たちは社会的地位と経済収入面で高い待遇を得られなく、若者もこのような理由で营造技術の仕事に従事しない。伝統建築の营造技艺は国家無形の文化遺産代表性項目リストに登録されたにもかかわらず营造技艺の後継者はそれほど多くはない。营造職人の社会的地位や経済収入を高めることができれば、技術の継承者を増やせるかもしれない。

### (ii) 甘肅省伝統建築修復营造技艺

国家級無形文化遺産代表的項目に登録された「伝統建築修復营造技艺」は甘肅省に伝わる河州（甘肅省臨夏地区）伝統建築の营造技艺である。表3に示す。登録された「胥」という姓は臨夏地区の七世代目の継承者で、伝統建築の領域に極めて優れた工匠家族あり、家族によって継承されてきた。

表3 甘肅省伝統建築修復营造技艺の登録内容

甘肅省伝統建築修復营造技艺の营造職人は国家級無形文化遺産に登録状況				
登録内容	項目番号	公布時間	項目名称	申告機関及び保護機関
	VIII-241	2014年（第四ロット）	伝統建築修復营造技艺	甘肅古典建設集団有限公司
营造職人の伝承者	名前	番号	民族	類別
	胥元明	05-2911	漢族	伝統技艺

### (iii) 中国政府からの保護と伝承への対策

中国政府は無形文化遺産を保護と継承するために、「伝統工芸振興計画」と「中国無形文化遺産伝承者への研修・研習・育成計画」という対策を立てた。

「伝統工芸振興計画」は中国の伝統工芸の継承と振興を促進し、文化部、工業・情報化部、財政部の共同により制定され、2017年3月に公布された。2018年5月に第一ロットの「国家級伝統工芸振興リスト」が作成され、このリストに甘肅省の伝統建築修復营造技艺は「家具建築」という項目でこの振興工芸リストに掲載されている。

「中国無形文化遺産伝承者への研修・研習・育成計画」は、形文化遺産保護のために学術方面と教育資源へ協力することを目的としている。無形文化遺産項目の所持者、従業員等の継承者たちを組織して専門知識を学ばせ、技艺について研究し、セミナーと実践活動を通して無形文化遺産の継承に貢献する。2015年から開始し2019年6月までに、全国の110以上の大学が参加し、670回以上のセミナーが実施

された。その参加者は約2.8万人に達した。

### (2) 西北地方の省級营造職人の現状

図2のような中国の西北地方は陝西省、甘肅省、青海省、寧夏回族自治区、新疆ウイグル自治区五省を含む。少数民族の集中地である。伝統建築に関する各民族は、自身の建造仕様を持つ場合があり、また建造仕様に限らず、民族独自の建造様式を守る上に、漢民族建造仕様を結び付けて、双方の民族建築特徴を持つ建造物を作り上げる場合もある。



図2 中国の西北地方

(筆者作成)

营造技艺の建造仕様に対応する西北地方の省級無形文化遺産伝統建築营造職人の登録状況を明らかにした。表4は各省の文化と観光庁のウェブサイトから省級無形文化遺産代表性伝承者を調べると、伝統建築营造職人の現状を把握することができる。

表4 西方地方の省級無形文化遺産营造職人の登録状況

省名	省級登録項目	伝承者	省級伝統建築营造技艺の伝承者への研修・研習・育成計画
陝西省	無し	0	無し
甘肅省	白銀市平川区伝統建築に倣う木作营造技艺	0	無し
	臨夏州永靖県伝統建築修復营造技艺	9	
青海省	循化サラル族寺院伝統建築营造技艺	情報不明	無し
	タール寺院伝統建築营造技艺	1	
寧夏回族自治区	原州民間伝統建築营造技艺	2	無し
	伝統建築漆・彩画作营造技艺	1	
新疆ウイグル自治区	情報不明	情報不明	無し

### (i) 甘肅省の登録状況

西北地方の省級無形文化遺産伝統建築营造職人の登録状況が省級のレベルであるにもかかわらず、甘肅省の臨夏州永靖県伝統建築修復营造技艺に登録された9人の代表性伝承者を除いて、その他の項目の人数が非常に少ない現状が明らかとなった。

この中で、甘肅省の「白銀市平川区伝統建築に倣う木作营造技艺」の建造仕様は、官式伝統建築の建造仕様とほぼ一緒だが、この技艺は、伝統建築の修理を行うのではなく、伝統营造技艺を基準に、伝統建

築と同じ様式の建造物を新しく建てる。登録された代表的伝承者がいないが、白銀市の地域にこのような職人が集中している。

### (ii) 西北地方の保護と伝承への対策

データベースの作成とシルクロード工匠聯盟の成立である。データベースの作成に関する西北地方の陝西省と青海省にはすでに無形文化遺産専用のウェブサイトとデータベースがある。甘粛省は作成中で、寧夏回族自治区と新疆ウイグル自治区の関連情報は現在公表されていない。

西北地方は2018年6月9日、陝西省に「シルクロード工匠聯盟」という組織を作った。1247名の伝統工匠と技能人材のデータを調査、登録した。そのうち、伝統建築營造技芸の大工が2人、左官は1人、塗師は1人が登録された。

また、2019年6月～9月に西北地方五省の文化財局が共同で「文化遺産保護工匠技能競技」というイベントを催した。図3に示す。その結果、伝統建築の營造技芸に属している18人の職人が優勝した。



図3 2019年の文化遺産保護工匠技能競技現場

(出典：文博中国からダウンロードして作成した)

### (3) 甘粛省の營造職人の現状

#### (i) 營造職人の分類と地域分布

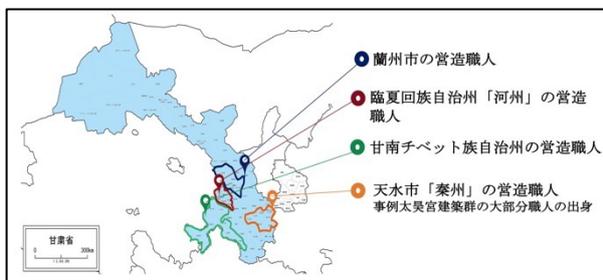


図4 營造職人の地域分布

(筆者作成)

甘粛省の大工の等級は、最高位から掌尺、老師匠(鉄尺)、職人と学徒を並ぶ。左官の種類は、煉瓦工、瓦工、石工に分かれている。塗師は伝統建築の装飾部分に担当する。絵画の能力は、塗師になる基本的な

要素となる。図4のような甘粛省の營造職人は主に蘭州市、臨夏回族自治州、甘南チベット族自治州と天水市という市級地方に分かれている。

#### (ii) 現在の伝承状況

伝承状況を明らかにするため、甘粛省白銀市の地域から營造技芸を持つ民間的な職人は、劉翔漢先生にインタビューを行う。

劉翔漢先生は營造技芸ができるが、修理工事に携わることが少ないです。また、学習経歴は主に書籍から勉強しながら工事を実行する。木作と瓦作二つもできる。現在まで学徒が続けてきたのは6人で、今は学生が一人しかいない。関連免許証明書がない、2019年のシルクロード工匠聯盟に参加して受賞した情報データを西安博物館に記録し、「榮譽証明書」を持つ。

インタビューの内容から甘粛省の継承者が少ない状況を明らかにした。營造技芸の学習は容易ではなく、生計を維持するため、進路も不安定になる。また、營造職人になる人は、いかなる機構に属さず、独立した社会形態が多い。従って、營造職人が不足の上に、ばらばらで、集中していない。

### 4. 研究事例の概要

#### (1) 五泉山太昊宮建築群の概要

五泉山は黄河の南の皋蘭山北麓の甘粛省蘭州市城関区に位置し、1955年に五泉山は人民公園になり、現存する伝統建築は清朝時代に建設されたものを主とし、建築芸術、宗教文化芸術、地方人文思想を表した文化遺産である。

太昊宮建築群は、1919年から1924年に劉爾炘という人が燃灯寺跡地に増築された儒教の建物群である。2013年3月5日に「太昊宮伝統建築群」として国宝指定を受けた文化財となった。図5のような南から北へ連続する四進院建築ある。建築形式は入母屋造りの屋根である。

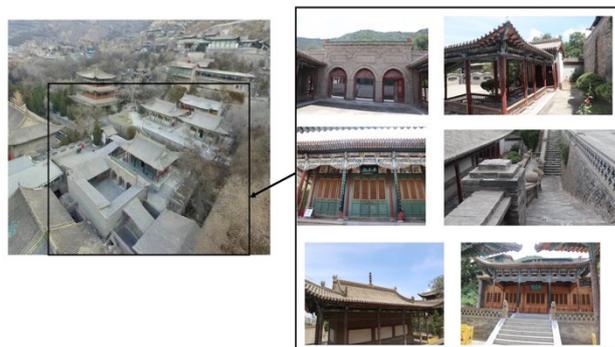


図5 五泉山太昊宮建築群

(出典：公園の職員と筆者撮影の写真から作成)

## (2) 五泉山太昊宮建築群の工事状況

2014年8月18日に修理を始め、基礎部分、主体（大木作）部分、屋根部分、入り口や窓（小木作）と装飾部分から破損状況によって施工される。具体的な修理状況は表5に示される。

## (3) 太昊宮建築群に携わった職人のインタビューに関する

インタビューの対象は当時修理工事の木作と瓦作の営造職人の管理者と修理会社に属して木工である。管理者は3年の学習で木作と瓦作の営造技芸を身につけて、現在は関連免許証明書がない、伝承者もいない。伝統建築の修理工事に携わる事がすくない。木工は修理会社に属して職人は免許があり、年に二回の研修を行う。伝承者がいるが、50歳の学徒は一人のみである。修理工事については会社から派遣する。

二人のインタビューから営造職人について継承者が非常に少ない状況を明らかにした。修理工事であった問題と困難なことが解決できるが、伝統的営造技芸を勉強する人が少ないので、伝承することが難しくなる。

## 5. 結論

### (1) 総括

中国の木構造伝統建築の営造技芸の伝承者あるいは営造技芸会社の従業員は職人である。新中国以

前には営造職人の社会的地位は高くなく、職人多くは公的組織や民間組織の工房に属していた。伝統営造技芸は師弟関係の下に修行と言語による教えという伝承を通して伝えられ、師弟関係が家族の場合は父から子へ受け継がれていった。新中国になった現在、営造職人は多くは政府や民間の伝統建築工程会社で職員として就職している。

ライフスタイルの進化や現代的な建築様式の広がりを受けて、中国の、現代建築も使われる材料や建築構造などが変化し、木構造伝統建築の営造技芸の出番は急激に減少した。それにつれて営造技芸の職人の仕事も少なくなり、一部の伝統的な営造技芸が失われたり、危機に瀕したりしている。しかし木構造伝統建築の営造技術は木造伝統建築の文化遺産がある限り、修理に必要な技術である。営造技芸は現代でも寺院、廟、宮殿等の伝統建築を修理したり伝統建築に倣って建築物を再建したりするときに用いられる。しかし営造技芸は人から人へと技能を継承する無形文化遺産である。継承を受け継ぐ人や技を教える人がいなくなると消失してしまう。営造技芸を含めいくつかの無形文化遺産は現代社会の変化のために急速になくなりつつあり、伝承保護を強化する事が重要な課題となっている。

営造技芸は有形と無形文化財の緊密な関係を体現している。一方を保護するにはもう一方の支援が必要で、互いに補完し合う。

表5 太昊宮建築群の修理状況

修理部分	破損状況	破損原因	主な修理方案	主な修理技術	主な作業職種
基礎部分	基壇、石階段の破損、風化	後期修理失当	①セメントの除去 ②元の材料の回復	①基壇外部の除去 ②石灰混入土で敷き詰めの上に、青煉瓦の敷設	瓦作で、煉瓦工と石工の作業
大木作部分	木の裂け、腐朽	①気候の影響 ②木材の萎縮 ③屋根の沈下	木の固め、取り換え	①木の填補、補強 ②元の位置に回復 ③腐虫防止処理	木作で、大工の等級から掌尺、老師匠（鉄尺）、職人と学徒の作業
壁体部分	壁の亀裂、風化	①後期修理失 ②当地面の排水不良 ③地盤が沈下 ④長期に風雨浸食	①元の様子に接合、補充地盤の固め ②亀裂の処理	①地盤陥没を再建 ②アルカリ化の取り除き ③表面の破損、膨張、皮の脱落を新たに塗り ④壁画の原状を持ち続け	瓦作で、煉瓦工の作業
屋根部分	①瓦の紛失、開裂 ②隅棟の葺が破断 ③大棟、降棟、短棟の局部破断と陥落	①雑草があり ②後期修理不当雨漏り	①防水処理 ②破損の瓦や隅棟等補修定期に雑物を片付け	①保護板灰を葺き、 ②複合土工膜をして泥を葺き、瓦を葺き	瓦作で、瓦工の作業
入り口や窓（小木作）と装飾部分	①持ち送りの脱落 ②ガラスの窓、床面の裂開	①人為的破壊、湿気で腐朽 ②木材の変形	元の様子に回復	①元の扉と窓を回復 ②室内外の床面の敷設 ③扉の扇と窓の交換	木作と瓦作で、大工と煉瓦工の作業

現在、中国は無形文化遺産の保護を進めており、营造技芸も無形文化遺産としてリストに加えられた。無形遺産の营造技芸の構成を見ると、典型的な集団伝承の性質をもち、数種の技術と職種による共同作業として建設に携わる。代表的な技術とその保持者の保存だけではなく、組織関係と運営方式をも保護しなければならないことに注意するべきである。

## (2) 今後の展望と課題

伝統建築の修理は八つの营造技芸から三つになった。木作、瓦作と漆・彩画作である。修理作業が複雑から簡単へと変わったのは、継承者が少なくなった上に、現代の作法に衝撃を受け、伝統的营造技芸を維持するのが難しくなる。また、修理する時、伝統建造物の価値を破壊するリスクが高く、一部の真実性を失うことが起こる。

修理技術を維持、向上のために、营造職人の育成と就業機会を増やすことが必要になる。現在では、民間的で、独立の营造職人が多いので、ばらばらにした職人を調査し、記録する必要があると考えられる。

職人の伝承について問題点について職人の不足の上に、伝統建築について工事の就業機会が不安定なので、関連免許政策があるが、ある機関に所属する必要があるという前提で、民間的職人は免許を持たなくても独立したい。その上、营造技芸を持つ職人は民間的な营造職人は自身の社会認知度を高める必要がある。

### <参考文献>

- 1) 王晓華主編、「中国古建筑構造技術（第二版）」、北京：化学工業出版社、p. 8、2019.
- 2) 唐栩、「甘青地区伝統建築工芸特色初探」、天津大学修士論文、p. 135-137、2004.
- 3) 卞聰、「蘭州地区伝統建築大木营造研究」、蘭州理工大学修士論文、p. 113-115、2019.
- 4) 陳華、「蘭州五泉山古建筑群研究」、西安建築科学技術大学修士論文、p. 9、2009.
- 5) 中国無形文化遺産ホームページ、  
< [http://www.ihchina.cn/project.html?tid=8#sy\\_target1](http://www.ihchina.cn/project.html?tid=8#sy_target1) >、  
(2020/10/19 最終閲覧)
- 6) 甘肅省文化と観光庁ホームページ、<  
<http://wlt.gansu.gov.cn/tzgg/33725.jhtml>>、(2020/12/17  
最終閲覧)
- 7) 騰訊ニュース、<  
[https://xw.qq.com/xian/20190925005664/XAC2019092500566400?](https://xw.qq.com/xian/20190925005664/XAC2019092500566400?from=timeline)  
[from=timeline](https://xw.qq.com/xian/20190925005664/XAC2019092500566400?from=timeline)>、(2020/12/29 最終閲覧)

- 8) WeChat の公式アカウント 「文博中国」 2019.
- 9) 蘭州市五泉山公園 「五泉文萃」 p. 46-47、2012.
- 10) 蘭州市華景文化遺産踏査設計有限公司 「五泉山太昊宮建築群踏査及び修理設計・破損状況」 2013.
- 11) 甘肅吳廷伝統建築工程有限公司 「五泉山太昊宮建築群竣工資料」 第一冊、p. 24-52、2015.